

会議の概要（議事録）

会 議 の 名 称	(番号) 1-49	墨田区基本構想審議会 第2部会（第1回）		
開 催 日 時	令和6年7月25日（木） 19：00から21：00まで			
開 催 場 所	すみだリバーサイドホール イベントホール			
出 席 者 数	【委員】角山剛、駒村康平、鎌形由美子、星野喜生、西村孝幸、平林秀敏、山室学、山口亮（計8名） 【事務局】楠政策担当課長、政策担当主事（田中）			
会 議 の 公 開 （ 傍 聴 ）	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)		傍聴者数	6人
議 題	1. 事務局からの伝達事項について 2. 第2回墨田区基本構想審議会の振り返りについて 3. 各部会自由審議			
配 付 資 料	1. 次第 2. 墨田区基本構想審議会委員名簿【資料1】 3. 第2回審議会の振り返り等【資料2】 4. 委員アンケート（区の好きなところ）【資料3】 5. 委員アンケート（区の改善すべきところ）【資料4】 6. 委員アンケート（大切にすべき理念「まち」）【資料5】 7. 委員アンケート（大切にすべき理念「ひと」）【資料6】 8. 区民ワークショップで寄せられた意見【資料7】 9. こどもから寄せられた意見【資料8】 10. 今後の部会スケジュール（事務局案）【資料9】			
会 議 概 要	第1部会、第2部会、第3部会ともに同日、同会場で実施。 はじめに、全体共有事項について、事務局から説明した。 1 事務局からの伝達事項について 事務局から資料9について説明した。 2 第2回墨田区基本構想審議会の振り返りについて 事務局から資料2から8までについて説明した。 以下、質疑応答 （山口委員）			

墨田区に居住している外国人はすでに5%ぐらいの比率でいると思うが、そうすると比率的に考えると、手帳を所持している障害者の方より多いと思う。

外国人が部会の中のテーマとして設定されていないが、各部会で包括的に議論される内容ということでよい。

(事務局)

おっしゃるとおり、外国人の数が増えていることは先程データで示した通りである。視点は様々あると思っていて、外国人を地域コミュニティやまちづくりの中で包括的に受け入れていくべきではないかというような意見や、医療を受けるにあたっての対応、地域の教育における環境をどう整えるか、また産業における働き手という視点であったり、インバウンドを見越した場合の観光の視点であったりというところもある。

外国人という括りで第1部会、第2部会、第3部会どこに置くというところがなかなか難しかったので、あえてこの部会の中の区分分けとしては設けていない。この点データとしてお示しをさせていただいたので、それを踏まえて各部会の中で、ご議論いただいていいと考えている。

(山口委員)

承知した。

3 各部会自由審議

全体共有終了後、各部会に分かれて審議を行った。

(角山委員)

皆さんから、お1人お1人考えていること、感じていることなど、自由にご発言をいただきたいと思う。

特に時間は何分以内で必ずということではないが、目途として5～6分ぐらい、もちろん長くなっても構わないが、まとめていただければというふうに思う。

それからもう1つ、今後の第2部会の進め方、部会以降のテーマについても確認をしていきたいと思うので、ご協力をよろしくお願いしたい。それではまず鎌形委員からお願いしたい。

以下、各委員の発言の要旨

(鎌形委員)

コロナを通じて人と関われなかったことから、認知症の人が増えたと感じている。イベントなどの集まれる場所をとおして、これから改善していけたらと思う。

ただし、どこの地域もそうだが、集まれる場所が少ないという問題がある。高齢者になると、大きな通りがあっただけで、行くことができないと思ってしまう。そんなに大きくなくていいから、人が集まれる場所があるといいのではないかな。

町会会員になる人も減ってきている。町会会員でなくても町会会館を入れるように、そして使いやすくしていけたらと考えている。

介護保険事業の委員会では特別養護老人ホームの床数が888床と聞いた。入れずに待っている人が大体600人で、待っている人の中で、症状が軽い人を除けば、大体300人くらいが重度の症状の状態で待っていることになる。1年待つと、大体は入れる。施設が空いていないわけではなくて、利用料金が高いところが空い

ている。これは墨田区だけの問題ではないが、待っている人の中には、家族がいなくて見る人がいない等のひどい状況の方もいる。どのように解決していくべきか考えていかなければいけない。

墨田区で行われている一時保育はとてもいい制度。ただし人手不足が問題で、何か工夫ができればと思っている。墨田区は先駆的なことをいろいろ行っている、これからもその方向性で行っていただきたい。

あと、不登校児はやはり増えている。古くからあり、解決しにくい問題で、引きこもりにも繋がりやすい。教育委員会の方で新しいことを始めたらしいので、それも進んでいくといいと思っている。

良い施策がたくさんあるので、区民も一緒に協力して行っていければと考えている。

(星野委員)

心配なことは、高齢の一人暮らしが年々増えていること。区としては、民間と連携して家賃を安くするとか、いろいろな支援があるようだが、どんな支援なのかは伝わっていない。具体的に分ければ、老人クラブの中でも、困ったときにこういう支援があると教えることができる。一人暮らしだと情報が入ってこない。

台東区では高齢者が運動できるような健康遊具がある。年寄りも公園に行つて、運動して元気になれる施設がもっとできてくればいいのではと考えている。

(平林委員)

墨田区の学力がすごく上がってきており、全国トップクラスの科目もある。先ほど、乳幼児の人口が減少しているという話もあったが、保護者としては学力が高い、学習に力を入れているところに魅力を感じ、子どもを墨田区の学校に通わせたいと考えるのではないか。このまま学力向上を維持、さらに伸ばしていけば、いつかは全国で全ての科目がトップクラスというような区になり、魅力的ではないかと思う。

あと体験活動や野外体験などでいろんな感情を育んでいくことが必要だと考えている。墨田区ではサブ・リーダー講習会やジュニア・リーダー研修などで野外体験をする場があったり、都市交流で様々な場所に行けるようなプログラムもあったりするが、なかなか知られていない。そのような事業を積極的に知らせていくことが必要。第1次産業に触れたりする機会を増やして行って、身も心も豊かに成長できるような教育がいろんなライフステージの中で体験できるようになればいいと思う。

地域の方に目を向けると、若い世代がなかなか町会に入らないというのがある。ただ一方で、若い世代からすると、町会の活動がよくわからないところもあったりするので、うまくマッチングできないかと考えている。世代間交流について、さっき町会会館の話があったが、子どもがふらっと来て、そこで高齢者等と交流できる沙龙的な取組が地域で醸成できてくると、地域の方と自然な形で顔合わせできて、それが地域活動に移行できていくのではと思う。

あと子どもたちからは、遊び場がないという声を聞く。やはり遊び場や公園が充足していくといい。自分が小さい頃と比べて、炎天下というところもあるが、自由にボール遊びができる場所が減ってきているので、そのような場所が必要と考えている。

墨田区は錦糸公園など大きな公園があるというイメージの一方で、親御さんからしてみると、錦糸エリアはどうしても治安が悪いというイメージがあるので、そのようなところも払拭できるような施策があるといい。

こういうことを行って、住民のエンゲージメントみたいなものを高めていき、墨田区が好きだと思えるようになってくれればいいなと思う。

以下、平林委員の発言に対する意見

(星野委員)

学力が上がっている要因は？

(平林委員)

学校が頑張っているのではないか。先生の質も上がっている気がする。学校も子どもたちも落ち着いてきている。

(角山委員)

東京未来大学では 2017 年から墨田区の教育委員会と関わりを持っている。墨田区の子どもたちは非常に自己肯定感が高いが、それが学力に結び付いていない。要するに自分ではできるという気持ちはあるけれども、それがなかなか学力に結び付いていない。勉強のやり方もいろいろと変えていく刺激をすれば、もっと学力も上がっていくのではないかと考えている。

勉強が好きになるという働きかけについて、先生方にもいろいろと工夫をしていただいている。我々が見ているのは数校の小学校・中学校だが、子どもたちのやる気は非常に高まっているということで、今のお話を伺ってよかったなと思ったところ。

引き続き、各委員からの発言があった。

以下、各委員の発言の要旨

(山室委員)

高齢者の問題について、高齢者と言っても、75 歳未満の方はかなりお元気で、社会的に活躍されている方もたくさんいる。75 歳から 85 歳ぐらいからは段々と現役を引退されている方も多くて、85 歳を過ぎると、自分のこともできなくなるので、介護が必要なのではないかと思う。人口の構成がどういうふうに変わっていくかというの、高齢者については細かく示していただきたい。

あと、2035 年までは多分 85 歳の方がだんだんと増えてくる時期になると思われる。病気になる人も増え、治療もなかなか難しく、認知症もあってそういう人たちがどういった治療を受けるかなどは本人が決めておいてもらわないと、今後厳しいなと感じている。

先ほど鎌形委員が仰ったように、特別養護老人ホームも、85 歳以上の方がだんだん増えてくると、施設数が不足するのではと思う。現在も 300 人待っているとなると、今からでも増やしておいた方がいいのではないか。その後は多分逆に減少するかと思うので、その後の施設について考えておく必要がある。

子どもたちについては、未熟児で生まれて、医療的ケアが必要な子が増えてきている。昔では助からないような病気の子も助かるようになってきている。例えばその子たちが成長して、保育園に行く年齢になった時に、必要な対応ができる保育

園が墨田区にはないと思う。他の地域ではそのような子を受け入れてきているので、受け入れられるようにしていただかないといけないと思う。

（西村委員）

数年前まで言われていた待機児童という問題が、ほとんどゼロに近く、今では1桁になったということで、ずいぶん様変わりした。その一方で、学童クラブはまだ足りないというような状況があると思っている。そういった部分については子どもの居場所についての今後の在り方を考えていく必要がある。未就学児の施設についても、環境が変わってきていて、幼稚園については、募集をしても子どもが集まらず、入園の募集を停止したというようなことがあったりと、求められているニーズが変わってきていると感じている。

保育園についても待機児童が減った一方で、保育所の空き定員が数百名単位であるということなので、どのようにその資源をニーズとしてマッチングさせていくかということを考える必要があると感じた。

山室委員からも話があったように、医療的ケア児の問題も、区として考えていくべき。医療的ケア児でなくとも、個別的な支援が必要な子どもに対応できる療育機関の整備もどのようにしていくべきかと考える必要がある。

一方で保育士不足について、保育所で働く職員は相変わらず不足している。これは聞いてみると、昨今の報道等で、保育所で働くことを目指す中高生が減ってきているとのこと。養成校に入学する方が減っているので、中長期的にみると、中々厳しい状況が続くのではと危惧しているところ。

あと、住宅問題について、子どもが複数になると、手狭という理由で、墨田区から転出される方が多い。このまちで住み続けられるような環境をどのように作っていくかというのも中長期的な課題と思っている。

そういった課題がある一方で、この間、初めてやらせていただいたこどもわくわくフェスティバルでは1万人を超える方に来ていただいた。ニーズに合致したものを行っていくと、やはりこのまちで過ごしてよかった、子育てしてよかったというようなことも感じられるのではないかと感じている。

また、保健所が今回1か所になるので、アクセスなどに係る心配の声を聞いている。交通政策や住宅政策も、子どもに関係する部分として必要になってくるのではないかと感じている。併せて公園についても、綺麗な複合遊具ではなくて、子どもたち自身で遊びを発想できるような公園があるといいのではないかと感じている。

（山口委員）

墨田区は本当に市民活動が盛んで、子ども向けの活動が熱心に行われている。先ほど西村委員が仰っていた子どもたちが自分で遊びを作る場所としては、わんぱく天国とかがあると思うが、今は区の直営になっていて、ボランティアも高齢の方が多く、あまりそういうことに熱心でないというようなことを聞いていて、せっかくある場所なのに残念と感じている。

鎌形委員が仰っていた移動の困難の話、昔と違って、例え近くであっても今は親が送り迎えしないといけない状況がある。ラーニングラボという場所ができたが、押上小の一部の子しか遊びに来ていない。他にもいろんな居場所があるが、結局その近くの子どもしか遊びに来ていない。

新しい保健センターにユートリヤで行っていた教育相談の機能が移るが、近い

エリアの親御さんは喜んでいいる一方、その他の親御さんからは、小さい子を連れて、そこまで行くのが厳しいとの声を聞いている。

何か大きな建物を建てるのではなくて、小さな場所をたくさん作る必要があるのではと思う。

あと不登校児について、墨田区には不登校児の居場所がないという話も聞いていて、他の区に連れて行っている親御さんが多い。フリースクールも不足している。

京島の方で、長屋文化を継承し共助の精神を活かした施設を作ろうとしているところがあり、すみだらしいと感じている。昔ながらの共助のある社会になればいいと考えている。

(駒村委員)

国の方で、5年に1度の高齢社会対策要綱が来月上旬にはまとまると思われるので、機会があればご紹介したい。

墨田区とは、金融包摂をテーマとした内閣府の事業で関わらせていただいている。認知機能の低下した高齢者が金銭の管理ができなくなったり、特殊詐欺に遭ってしまうことが増えている。認知症になる手前の段階の軽度認知障害から認知症の初期あたりが実は一番危険。自分が認知症になっていると認識できていないことが原因である。そういう方が増えた場合に、金融機関や薬局などから地域包括に情報提供できればいいが、個人情報保護の関係でできない。適用除外の法律として、消費者安全法と社会福祉法があるが、それを認めている自治体がほとんどない。その仕組みを今墨田区と作っているところ。

福祉政策というのは基礎的自治体が一番大事だが、住民も自主的に行っていくことが重要な動きになってくる。先週行ってきたまちは、9万ほどのコンパクトなまちで、初期の認知症の人の情報を持っているので、何かあれば30分以内に駆け付けるという体制ができていた。ただし去年の対象者が300人だったのに対し、500人に増えている。このようなことから、行政だけの対応では難しくなっている。

70歳ぐらいの方がたくさん住んでいるマンションでは、徘徊やごみ屋敷、孤独死などの問題が出てくるので、どこにアキレス腱があるのかを把握していく必要がある。孤独死などを理由に賃貸住宅を借りることができない高齢者について、墨田区の場合には持家、賃貸でどうなっているのかということも見ておかなければならない。

市民が主体的に参加できるように、データの見える化をしておく必要がある。そうすれば、市民はこの部分にアキレス腱があると理解できる。なるべく細かいメッシュで見える化して、議論をしていく必要があると考えている。

(角山委員)

墨田区の教育委員会と連携して、墨田区の子どもの学力向上について、協力してきた。その中で、小中学校の先生方が非常に熱心に取り組まれてきたと実感しているところ。

保育士不足について、私立大学にも保育士養成の学部学科を持っているところが多くあるが、軒並み募集を減らしている。入学希望者も減ってきている。労多くして収入が少なく、モンスターペアレントの問題など、非常に大変という親御

さんからの考えもあるのではないかと思います。全国的に志願者が減っている中で、潜在保育士にどうやって現場に戻ってきてもらうのかということを厚生労働省の方で考えているとのこと。

足立区では孤立ゼロプロジェクトをやっていて、当初から参加しているが、独居老人とのコミュニケーションが非常に難しい。高齢者の見守り隊を担っている方も高齢化しているが、非常に深刻な問題だと感じている。

ここで、皆さんの方から区に確認しておきたいことはあれば、お聞きいただければと思うが、いかがか。

以下、質疑応答

(駒村委員)

感覚的であるが、江東区と比べて公園の数がかなり違う感じがする。公園の面積率について、もしかしたら川沿いの大きいところで稼いでいるかもしれないが、墨田区の公園の状況についてお伺いしたい。

(事務局)

他区との比較は今明確に申し上げることはできないが、公園面積は少ないとは聞いている。緑率というような形、もしくは緑被率というような形でよく数字の評価がされるところであるが、正直に申し上げてあまり数値的にはよろしくない。やはりまとまった土地がないので、小さなポケットパーク的なところを児童遊園として整備しているというのが非常に多い。全体的に緑は少ないかなというのは実感としてあるので、これから先、公園を見直していくときに、現実問題として面積が取れない中で、どのようにしていくことが、子育てや教育的な支援という側面も含めて考えていったときに、良いだろうかというようなことは行政として大切にしていく必要があると思う。

(星野委員)

吾妻橋公園にはトイレと水道がない。普通トイレと水道がなかったら誰も来ない。やっぱりトイレと水道は絶対なくてははいけない。例えば防災的な観点で見れば、トイレと水道さえあれば、一時的な避難場所として活用できる。

それと、今、足立区は都営住宅が建て替えの時期で、建て替えとなると、そこに住んでいる高齢者はバラバラになる。結局それが原因で、老人クラブが解体される。墨田区も空き家になって、家が壊されたらすぐマンションが建つ。そうすると高齢者はもう住めない。高齢者があまり元気のない街というのは活気がない街だと思う。

若者が、高齢者をみて、生き生きしていいなと思えるようになるべきで、ある程度の援助は必要だと考えている。

(事務局)

誰もが生き生きと暮らしやすいまちをつくるということは、本質として、住んでいる方々、そこで過ごしている方々が実感していただかななくてははいけないというふうに思っている。

トイレの話について、先ほど申し上げたように墨田区は土地がない中で、小さな公園を数多く整備しているので、その1つ1つすべてに取り付けることは管理コストを考えるとなかなか現実的ではないと思う。

(星野委員)

公園になかったら、コンビニでも行こうみたいになって、結局公園に誰も来なくなる。公園を維持するのであれば、トイレと水道は絶対必要。

(駒村委員)

高齢者の方に外に出てもらうことは大変重要で、外に出るときにやっぱり心配なのはトイレだと思う。世代によってトイレの必要性は異なると思う。例えばコンビニに協力いただいて、誰でもトイレみたいな形で、安心して皆さん外に出ようというふうにする工夫もある。

また、街中にベンチがあれば、フレイル予防になると思うので、そういう面で医療費や介護費にも寄与され、社会保障のコストを最小限にする風が吹くのではないかと思う。

(山口委員)

区北部の方で椅子を作るプロジェクトをやっている。逆に置く場所さえあれば置ける。だから、どこにベンチが置けるのかわかるといいなと思う。

(鎌形委員)

保証人もいなく、どこにも移れない高齢者の住んでいるアパートが取り壊しされてしまうという問題に関わることがあるが、区として長い目で見たときに、その問題について、どのように考えているのか。台風19号による洪水の恐れがあった際に、一人暮らしで自由に動けない人の家に訪問した。避難を促したが、そこから動く意思がなかった。そのような人が多くいる。

例えば、高齢者住宅の取り壊しがあった際に住民がバラバラになって、それまでの付き合いがなくなるとの話があったが、そこに住んでいた方への補助など、何かできないのかなと考えている。

医療関係の会議に出た際、墨田区の特徴の話になったときに圧倒的な貧しさとの話が出た。貧しさというのは住環境のこと。ショックを受けたが、実際に、車いすやケアベッドが入らない家もいっぱいある。その辺も何か援助ができたかと考えている。

(事務局)

住宅困窮者への支援という形では、区の住宅部署が行っている取り組みもある。すみだすまい安心ネットワーク事業というものを行い、協議会みたいなものを作って、不動産業界の方にも入っていただき、セーフティネット住宅というような形で住居に困られている方が入る住居の確保に取り組んだりしているところではある。ただ、おっしゃられるとおり、それで十分な数になっているのかとか、言っているような本当に現場の感覚での答えになっているのかというところは絶えず見直していかなければいけないと思っている。

(山口委員)

学校の部活の外部移行について、今年はどうなっているのか。

(事務局)

今年も継続しているが、結局引き受け手の不在などのいろんな課題もあって増やすところまでできていないというのが、現状である。

(山口委員)

墨田区はいろんな活動があって、中高生とか特に認知しづらいところなので全

然集まらないみたいなのところもある。

学校に入っていくのが難しいけれども、外へなら出ることができるということであれば、そのところをもっとハードル下げてもらえたらいいのではと思う。体験格差を埋めるための事業を行っている団体もあるので、そこうまくマッチできたらと思う。

(事務局)

そのような取組があることは我々の方でも把握している。一方で、個人情報の取り扱いなど、行政上進めていく上での課題などを確認しながら検討していきたいと思う。大きな方向性として、やはり教員の方々の負担を軽減することと、子どもが健全に成長できる能力を伸ばしていくことは、とても大切なことだと思っている。

(駒村委員)

山口委員が仰っていた外国人の話は気になるころではある。都内でどういう状態になっているかということと、資料が少ないが、5年以上居続けてくれる、この長期滞在の傾向としては先進国でもかなり高い。これもちゃんと見ていく必要があるテーマで、頭に入れとくべき。

(平林委員)

先ほどベンチの話があったが、ベンチが地域にあるとすごくいいというようなニーズを多分知らない。だからいろんな分野の領域を横断して、それぞれのニーズを把握できる環境が10年15年後、自然にあると良いと感じた。

(角山委員)

それでは、我々第2部会になるが、8月の29日のテーマ、それから9月27日のテーマ、10月28日のテーマということで、8月は福祉（地域福祉・高齢者・障害者）に関すること、それから9月が子育て・学校教育、それから10月が健康・保健衛生に関することということになっているが、これにこういうものを加えたらいいのではとか、何かお気づきの点などあれば、ご指摘いただければと思う。非常に大きな括りなので、いろいろなものをここに入れることができると思うが、一応この第2部会のそれぞれの会のテーマとして、このようなテーマということではよろしいか。

それでは今後の部会スケジュールについてはこのテーマで進めていくということで今後ご協力をよろしくお願いしたい。

まだ少し時間あるので、自由討論ということで、何かあればお願いしたい。

(駒村委員)

今後の部会について、事務局が資料を用意していただいてそれを議論するのか。今日みたいに自由に皆さんが議論するのか。どういうスタイルでいくのか。

(事務局)

次回に向けて検討させていただく。

(駒村委員)

今日もそれぞれ考えてこられたと思うが、共有したいことや主張したいことを事前に用意して事務局に3日前には送って、シェアした方が効率的と思う。

全員が必要というわけでもないと思うので、用意したい方はするというスタイルで行うといい気がする。

	(角山委員) そういうことで部会長の方にお伝えする。 (山口委員) 各部会の中で何かを決めるということではなくて、ただディスカッションを3回続けるということによいか。 (角山委員) そのように進めていくことになると思う。各回でテーマごとに問題点を洗い出し、最終的にそれをまとめるということになっている。 その他、特になければ、非常にスムーズに、いろいろなご意見をお出しいただいたということで、次回以降、非常に参考になると思っている。これを鈴木部会長の方にお伝えして、次回以降は鈴木部会長の方で進めていただくということになる。それでは、一応ここで終わりということによろしいか。 (各委員) 意見無し 解散
所 管 課	企画経営室政策担当（内線 3 7 2 2）